

2. 評価問題作成のしかた

—小説教材『物と心』における目標分析を通して—

(1) 教材

国語 I 単元 小説『物と心』(小川 国夫)

(2) 目標分析と評価問題作成の手順

国語 I の「目標」の確認

(高等学校学
習指導要領)

国語を的確に理解し、適切に表現する能力を養うとともに、言語文化に対する関心を深め言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

国語 I の「内容」の検討

(高等学校学
習指導要領)

小説内容とのかかわりを中心に学習指導要領の内容を検討する。

- ・ A 表現 ア イ ウ エ オ ㉞ ㉟
- ・ B 理解 ㉞ イ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴
- ・ 言語事項 ア イ ㉟ ㊱ オ
- ・ 国語 I 「内容の取り扱い」

(1) ア イ (2) ㉞ ㉟ (3) ア イ

※◎…かかわりが深い ○…かかわりがある (○)…かかわりが少しある

【文学的文章の指導内容】

- ① 主題を叙述に即して的確にとらえる。
- ② 人物、情景、心情を表現に即して読み味わう。
- ③ 自分なりの意見を持つ。(考えかたを広くし、深めること)
- ④ 表現上の特色、文体の特徴に注意して読む。
- ⑤ 語句・語彙を豊かにし、常用漢字の読み書きができる。

小説単元の学習目標

- ① 作品に描かれた情景や人物の性格、心理を

表現に即して読み取る。

- ② 作品の構成と展開を通して、作者が表現しようとした主題を考える。
- ③ 短編小説を読み、表現上の特色を理解する。
- ④ 優れた文章を読み、文脈の中から語句や語法を正しく理解する。

『物と心』における行動目標の設定

- ① 段落相互の関係をつかむことにより、短編(掌編)小説の構成、展開を理解することができる。
- ② 「物」に触発され、微妙に変化していく主人公の「心」の動きをつかむことができる。
- ③ 作者が『物と心』において何を描こうとしているかについて、構成理解、心理理解の上にたって考え、更に題名との関連においても考えることができる。
- ④ 表現の優れているところ、感性や感受性が個性的に表現されているところを指摘し、描写の的確さや文体の特色を理解することができる。
- ⑤ 難解な語句や表現について正しく理解し、また正しく音読することができる。
- ⑥ 『物と心』と同系列にある『海鷗』などの半自伝的作品(“浩もの”)を読むことにより、作者の人生観、人間観を理解することができる。

『物と心』における下位行動目標の設定

【『物と心』本文の第2段落の例。上記の各目標の下線部(____部)との関連から。】

- ① 浩の心理と行動の流れ——「後悔」⇨「羨望」⇨「牽制され、負けていく」⇨「見せかけの没頭」⇨「コンプレックス」——を読み取るができる。

『物と心』における総括的評価問題の作成

【上記の下位行動目標との関連作問例】

◀その1▶